

日本医療教授システム学会(JSISH)
2017年度第2回理事会議事録

開催日時:2017年8月9日(金)15:00~17:15

開催場所:AP 東京八重洲通り 12階 Cルーム

出席者:池上敬一(代表理事)、大西弘高(副代表理事)、浅香えみ子、井田雅祥(以上常任理事)、
石松伸一、奥寺 敬、高村昭輝、中村丈洋、三上剛人(以上理事)、井上まゆみ、氏家康
子(以上 CATS 事務局)、
仁田尾慶太、江口翔太郎(以上事務局)

欠席者:鈴木克明(副代表理事)、阿部幸恵、岩本由美、大川宣容、紙谷あゆ美、
武田 聡、津嘉山みどり、松木蘭和也、松本 尚浩(以上理事)、
高橋誠治、長坂 浩(以上監事)、
三好雅之(事務局長)

会則 11 条 2 項により、池上代表理事を議長として開会した。

1. 議事録署名人の選出

高村昭輝理事、中村丈洋理事が選出された。

2. JSISH ロードマップ 2020

池上代表理事より 2020 年に向けての学会ロードマップについて以下の説明があり、承認された。

1) 発行・リリース予定

第 7 回の総会テーマ(「できる医療者に育つ/育てるしくみ」)を念頭に置いた、「「できる」医療者に育つ/育てるための医療シミュレーション学習のデザイン」を学会のプロダクトとしてリリース(第 10 回総会・学術集会を予定)。

看護学生を対象とする書籍「急変させないための患者観察テクニック」を出版(来年 1 月を予定)。

2) 編集委員会

医療職の能力開発(JJHPD)については、編集・発行体制を変更し、会員に年 2 回紙媒体として送付するというのを改めて確認した。

またサービス拡充案として、2 号(3 月)発行の際に総会特集号を同封して会員に送ることとした。それに伴って、費用が 160 万~200 万円ほど増加するが、会費の値上げは行わない方針が示された。財源については、(1)ゴールド・メソッド・セミナーの開催(2)ゴールド・メソッド&患者安全 TeamSim 利用費、による収入を充てることが提案された。

3) 教授システム開発委員会

JSISH の価値と役に立つツールを開発・提供する。

SimEDU2017:東京医大で 12 月 2 日(土)に開催予定。

4) 学術交流推進委員会

年次学術総会の構成、各 ad hoc 小委員会の状況について確認された。

3. 第 9 回日本医療教授システム学会総会報告について

第 9 回の総会について、池上代表理事より報告があった。参加者が 200 人を超え、東京以外で開催でも需要があることが確認された。また黒字決算であったことも併せて報告された。

参加者数:計 227 名(内訳:事前登録 155 名、当日登録 72 名)

演題数:計 110 演題(内訳:会員 74 件、非会員 36 件)
懇親会参加者数:計 84 名(内訳:招待 29 名、参加 55 名)
併設セミナー参加者数:計 118 名(会員:49 名、非会員:69 名)

4. 第 10 回日本医療教授システム学会学術集会(2018 年)について

大西第 10 回会長より、学術集会の準備状況について報告がされた。また広告等の依頼に関して各理事の協力を仰ぐ旨要請があった。

会長:大西 弘高(東京大学 医学教育国際研究センター)

日程:2018 年 3 月 1 日(木) ~2 日(金) ※3 日(土)併設セミナー開催

会場:東京大学

共催:日本プライマリ・ケア連合学会

テーマ:「地域を盛り上げることのできる医療専門職の育成」

5. 日本医療教授システム学会学術集会特集号を発行することについて

会費納入率上昇の足掛かりとして、学会誌年 2 冊発行することに加えて会長が抄録として学術集会特集号を発行することが提案された。

学術集会特集号は従来の「プログラム・抄録集」であり、これまでの内容に加え学会としての活動やこれからの方向性についての記述の強化が検討された。

発行する場合は 2 号に同封して送付する形をとる。

6. 第 11 回日本医療教授システム学会総会・学術集会の予定

配布資料に基づき、三上理事所属の札幌の吉田学園で開催することが提案され、了承された。

(1)使用料が安価、(2)機器が充実しており、機材を送る必要がないという 2 点から会場が選定されたという経緯が池上代表理事より述べられた。

開催日程は、当初 5 月下旬で開催する方向であったが、学園側の都合もあり 3 月下旬での開催を目途に調整を行うということが確認された。

7. JSISH 総会併設セミナーの受講料のフローの説明

池上代表理事より配布資料に基づき、常任理事会にて審議を行ったセミナー運営をラーニング・システムズ(株)に委託する件について説明がなされた。

2016~17 年のセミナー収益 200 万の取り扱いについては、常設セミナーの他、総会費支出の補填・併設セミナーの経費に使用するということが確認された。

ラーニング・システムズ(株)に収益事業を運営させることにより、資金の流れの透明性を高める旨の説明があったが、任意団体である学会と株式会社の繋がりが問題視されるのではないかと意見があり、理事会としては一般法人化に向けての検討を進めることとなった。

8. JSISH-ETC について

配布資料に基づき、AHA と NAEMT のトレーニングセンターの内容が紹介された。

活動の主体は教育トレーニング小委員会であり、問題が発生した場合は教育・トレーニング委員会に報告することが確認された。

9. 医療学習デザイナー資格取得フローの改定について

池上代表理事より医療学習デザイナー資格取得フローの改定が提案された。

従来の学習デザイナーになるためのフローにゴールド・メソッド関連の事項を追加し、患者安全 TeamSim のインストラクターを養成する計画が述べられた。

大西常任理事よりコースの数や認定制度に対する周知機会の不足が指摘され、ホームページでの周知や学会誌での解説等の記載について検討された。

学会方針の説明義務と「見える化」を図りながら、アクティブな参加者数を増やしていくということが確認された。

10. 浅香常任理事からの提案議事について

浅香常任理事より以下の議事が提案され、承認された。

1)委員会活動経費について

現在の委員会活動内容が不明瞭であるため、毎年の活動報告・計画・予算を各担当理事ないし委員長が報告することが提案された。

学会としての方向性の概要を、担当理事用に送付、確認の後に報告を受ける形とした。

2)委員会委員について

次年度以降、委員会活動の増加を見越し、重複委員の減少・会員参画機会の促進を図り各委員会の再編が提案された。

担当理事が委員を選出し、基本的には各理事がいずれかの委員長を務めることが確認された。

委員会活動が報告されない場合は理事の改選を考慮することが検討された。

3)患者急変対応コースの今後について

ファシリテーターコースガイドブック作成に着手することが報告された。

出版については出版社に依頼し、DVD 作成費等については見積もりを取った上で再度検討することとした。

池上代表理事は映像についてはクオリティを問わず、効果があればよいとの方向性を示した。

また、コースの改定案も示され、既存のコースは大きく改定せず基本コースを別途作成し、現実に合わせて部分で不足している箇所のみ改定していくこととした。

4)学会規定・運営細則について

細則を大まかに作成し、規程に沿って改定を行っていく。

5)学会の意思決定について

現在サイボウズを使用しているが、これは暫定的な措置であり、方向性などの決定は副代表理事や常任理事等の相談で決めることが確認された。

基本的に意思決定は対面式で行い、副代表理事・常任理事でディスカッションしてそれを会員に向けて発信して学会の活動を活発化していくことが確認された。

11. その他

・ARCS-ISD セミナーの受講料については、自由に設定が可能ということが確認された。

・次回の理事会で会費未納者についての対応を集中的に協議することとなった。

以上